

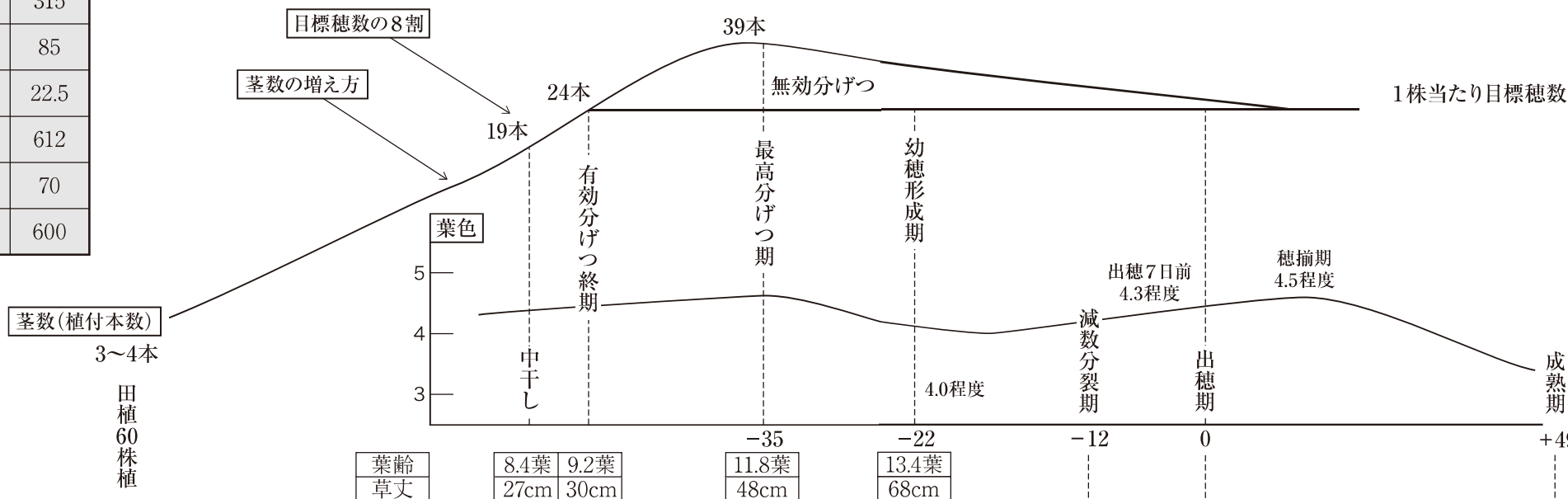
てんこもりの栽培 ごよみ (JA米生産基準)

収量構成の目安	
収 量 構 成	目 安
m ² 当 たり 株 数 (株)	19
1 株 当 たり 穂 数 (本)	24
m ² 当 たり 穂 数 (本)	450
平 均 1 穂 粳 数 (粒)	70
m ² 当 たり 粳 数 (百粒)	315
登 熟 歩 合 (%)	85
玄 米 千 粒 重 (g)	22.5
m ² 当 たり 最 高 茎 数 (本)	612
有 効 茎 歩 合 (%)	70
10 a 当 たり 収 量 (kg)	600

栽培のポイント
① 60株植えの徹底、3cmの浅植え ② 幼穂形成期から出穂期までの飽水管理の徹底 ③ 紋枯病の発生に留意 ④ 出穂後20日間の湛水管理の徹底

水管理のポイント	
	目安
田植日	5月11日
やや深水管理	5月11日～5月15日
初期除草剤散布	5月11日～5月13日
体系是正剤散布 (初期剤使用の場合)	5月21日～5月25日
体系是正剤散布	5月11日～5月19日
浅水管理	5月16日～6月 3日
軽い田干し (2日程度)	5月18日～5月20日
落水(軽い田干し)	6月 4日
溝切り	6月 6日～6月 9日
中干し	6月10日～6月19日
間断かん水	6月20日～7月12日
飽水管理	7月13日～8月 3日
湛水管理(出穂期)	8月 4日～8月23日
間断かん水	8月24日～9月14日
落水	9月15日～

※中後期除草剤は残草の種類を見て随時散布する



月 日	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月					
	5/11		6/10 6/14	6/30 7/13	7/23 8/4	9/22						
生育期区分	育苗期		田植期	活着期	有効分げつ期	無効分げつ期	稲体組織充実期	幼穂形成期	穂ばらみ期	登 熟 期	収穫期	土づくり
水 管 理	深水管理		浅水管理	溝切り、中干し		間断かん水		飽水管理		湛水管理	間断かん水	
栽培管理のポイント	◎雑草が多かったほ場では、刈取後に雑草に応じた除草剤を散布する。 ◎稲わらの腐熟を促進するため秋耕を行い、必ず排水溝を掘る。 ◎シリカロマンは10 a当たり100 kg以上施用する。 ◎土壤診断に基づく土づくりの実施。											
	◎刈取適期表示を目安に刈取を行い、刈遅れのないようにする。 籾の黄化率85～90％程度が刈取時期											
	○フーン時は事前に入水して、品質低下を防ぐ。 ※ただし、ほ場状況に応じて落水時期は調整する。 ◎刈取予定日の5～7日前までは間断かん水を行う。 落水を急がない											
	◎基本防除を徹底する。 いもち病・カメムシ類防除の徹底											
	の湛水管理を徹底する。 ◎胴割米の発生防止とカドミウムの吸収抑制のため、出穂から20日間 稲体の活力維持											
	適切な葉色に誘導する											
	◎紋枯病が発生した場合は直ちに防除を行う。 ◎昨年紋枯病が発生したほ場では、穂ばらみ期に防除を行う。 紋枯病防除の徹底											
	◎2回目は1回目から10日後に行う。 ◎1回目の穂肥は幼穂長1㎜、葉色40で行う。 ◎葉色が40を下回る場合は追肥を11 kg／10 a施用する。 穂肥は生育に応じて適正量を施用する(分施)											
	◎幼穂形成期以降は飽水管理を行う。 ◎畦畔・農道の草刈りを徹底する。 ◎中干し後の水管理は間断かん水を行い、干しすぎない。 適切な中干しの徹底											
	◎溝切りは遅れずに、6月上旬に行う。 ◎高温により藻が発生したり田がワク場合には水の入れ替えを行う。 ◎根の発育を促すため、2日程度の軽い田干しを行う。 ◎活着後は浅水管理を行い、日中は止め水で田水温を高め、分げつを ◎田植後4日間はやや深水を行い、活着を早める。 良質な茎を早く確保する											